



宮崎県立日南振徳商業高等学校

平成22年4月14日(水)

校長室だより

3号

中島 悟

【本日の行事】 ・ 7時間授業、自転車点検
・ 第2回同窓会実行委員会 → 「同窓会総会」8月7日(土) シーズン

- 1 「県立振徳商業に内定」(新聞記事より) 30周年記念誌より抜粋
- 2 校名「振徳」の由来 平成22年度学校要覧より抜粋
- 3 「開校の思い出」 初代事務長 酒井義明 10周年記念誌より抜粋



第31代飢肥藩主 伊東祐相直筆(振徳堂玄関及び校長室(拓本))



創立時の正面玄関

『県立振徳商業』に内定 旧藩校の名前から 1969年(昭和44年)

日南市東郷山下に来春開校する県立商業高校の校名はこのほど「県立振徳商業高校」に内定。12月定例議会に提案して本決まりする。新設商校名は当初、日南商業高校となっていたが、近くにある私立日南商業高校から名前が同じだとまぎわらしく、生徒募集にも影響すると異議が出て、県もこれを了承。日南市教育委員長飯田達夫、鈴木善明(県社会教育委員長)両氏に校名を依頼していた。

各界から振徳、嶺南、東光寺などゆかりのある校名が出されていたが、旧飢肥藩の藩校、振徳堂の名を採用することとなった。新設商校はすでに敷地造成を終わり、現在鉄筋3階建ての校舎を建設中。来年度から1学年定員200人でスタートする。

校名「振徳」の由来

飢肥藩城跡の東側に旧飢肥藩校振徳堂がある。1801年に学問所が正式に開設され、1830年(天保元年)第13代藩主伊東祐相がこの学問所を増改築し、翌年に振徳堂と名づけ藩校として開いた。

振徳とは、孟子の教えにある「又從而振徳之」(また従いてこれを振徳せり)の章からとったものであり、文武相伴い立派な人間、国家に有用な人材をつくることを指標にしていたものである。

開設と同時に、安井滄洲、息軒父子を招き、父滄洲を初代総長兼教授に、息子息軒を助教授に任命した。さらに高山信濃、落合教助(雙石)、松田義済(松窓)等そうそうたる学者を教授に招いた。この藩校は、郷土子弟教育の中心として多くの人材を養成し、飢肥西郷と言われた小倉処平や明治の外交官小村寿太郎らを輩出している。

開設の主旨には「聖賢の教えを守り、忠孝に励み、礼節を尊び、長幼の序を重んじ、文武両道をきたえる」ことが強調されている。

本校の校名も、自分の天分や個性を振りおこすために、その日その日の生活を大切に、勉学にスポーツに精励努力することが何よりも大切にするを願い、振徳堂の名をいただき、1969年12月20日「宮崎県立日南振徳商業高等学校」と命名されたものである。

開校の思い出（原文）

初代事務長 酒 井 義 明

烏兎勿々と云いますが、月日のたつのは本当に早いもので、振徳商業高校が出来ましてからもう10年が経過しようとしております。この記念すべき時に会いましたことを心から光栄に存する者でございます。

あらためて、本校の創立に努力され、育てていただきました県教育委員会、日南市長はじめ関係の方々又PTAの設立にいろいろと力を尽してくださいました油津の故鈴木善明氏に深甚の敬意を表します。想い起せば丁度10年前の昭和45年2月1日、小生は福島高校の現在体育館やプールが建設されている第2グラウンドの土地購入を完了し最後の一筆の登記用務で鹿児島市に出張しておりました。2月2日の夜帰宅しますと妻が日南高校校長の高橋四郎先生から電話があつて2月1日付で新設高校の設立準備委員として発令されておると云います。余りに唐突の事でびっくりするやら、身のひきしめる思いがするやらでございました。

2月6日に県教育委員会で説明会があり、その後は日南高校の校長室で初代校長の筒井先生と机を並べて仕事を始めたものです。制服、制帽、校章、バッジの作成から教室内部の設計、教具教材の充実計画、自転車置場、売店、焼却炉の建築、校舎間の緑化庭園の構想、暗中模索、思考錯誤の中で無我無中の戦争のような毎日でした。只その中で筒井先生と話し合っていたことは、何処にも負けない立派な学校を作ろうと云うことでありました。時々、学校敷地に行ってみますと、現在日南市の総合運動公園敷と全く同じで、荒涼とした茶褐色の粘土質砂礫岩の原野の中で1棟の半分と2棟の校舎建築が突貫工事の最中でした。46年の陸上競技場造成時も非常に雨が多く苦労しましたが、この45年1,2,3月も非常に雨が多い年であり、その上に工事関係のトラックの出入によって毎々泥だらけの寒い日校舎建築でありました。学校校舎にトラックの多いのもこのような理由によるものと考えております。

小生の仕事のことで恐縮ですが、一度しか作り得ない教室内の施設、二度と買えない設備、備品ですから、しっかりしたもので尚、先生、生徒が使い易く又その教室に生徒が入った時その雰囲気包まれて教育効果が上がるようにという事に最も留意したものです。例えば、音楽教室の机、椅子を少々贅沢なものにしたり、グラウンドピアノを購入したり理科教室の教師机、生徒机を黒のデコラ帳りにしたのもそのようなことであり、中でも家庭科の調理台、裁縫台の設計作成には苦労した思い出があります。

1回生の入学選抜試験は日南高校で行われ合格生徒の集合は鳴明館を貸していただいて入学前、入学時の説明をして、4月10日今の卓球場で開校第1回の入学式が挙行されましたが通学道路、玄関は泥でぬかり、式場はペンキの匂で倒れるお母さんや生徒がでるようなことでした。当時の先生方は筒井校長外9名、非常勤講師3名、事務室は小生と臨時の故緒方実先生、森山さん、橋口さん、PTAの黒木春恵さんであり、PTA会長は日野道雄氏でありました。

小生が最も苦慮したのは、在校生はもとより、卒業し成人しました後でも、何時までも忘れ得ない心の故郷、二度と帰ってこない青春の人間形成の場としての学校作りであり、由緒ある校名をいただいた振徳商業高校から将来多くの人材が輩出して社会に貢献し、地域社会の産業経済のみならず、日本、世界の経済を背負って立つ子供達の教育条件、環境の整備をどのようにしたらよいかということでありました。

先生方と生徒達と喜びも悲しみも分かち合いつつ爾来10年関係当局の御配慮と先生父母の協力の賜物で41,268平方メートルの校舎敷、運動場に延7,922.43平方メートルの校舎施設が建設されました。尚約2,650本の植樹芝生庭園もできまして、まだ完全とは云えませんが立派な学園になりましたが、小生にとってはどの建物も、どの備品も、あの草木も夫々が自分の子供のような愛着を感じます。

今後ますますの発展をしてすばらしい振徳商業高校になりますよう心から祈念いたしまして小生の回想とします。